

えんがわ

第92号

2014年11月発行

発行元
衣笠病院グループ
衣笠須賀市小矢部
2-23-1
Tel 046-852-1182

異動して！

六月に法人事務局総務部長から、ケアセンターへ事務長として異動をされました。私は当法人へ就職する前、何とか合格した某大学で「社会福祉学」を専攻していました。それは三十年も前の話。介護保険のかけらもない時代でしたし、私は学生時代にしっかりと勉強をしたタイプの人間ではありません（日頃を見ていればわかる？大きなお世話だ！）。更に就職後は全く畑の違う事務一辺倒だったので、ケアセンターが行っている事業に関する知識は悲しいかな、ほとんど素人以下です。またケアセンターと一口



赤澤 均

に言っても、衣笠、長瀬、葉山と三箇所には拠点を持ち、この移動だけでも一苦労。毎日時間だけが過ぎ去り、事務長らしき仕事は何もできていません。これも今日までまわりのスタッフに助けられ、努力を怠り日々甘えて過ごしてきた「ツケ」と言えましょう。今の私は力不足の「事務屋のおじさん」。今後は僅かなりとも研鑽を積み、いつかスタッフや利用者さんから、頼りにされる本当の意味での「事務長」になれたらと思っています。ケアセンター事務長

えんがわ在宅 ひとくちメモ

あきらめない

ほんの少し前？大昔？のことを思い出して下さい。自分が欲しいものが棚の上にあります。でも、どんなに背伸びをしても届きません。ジャンプをしても届きません。そんな時、子どもたちはというと、身の周りを見て、足台となるもの、手になるものを探し、はたまた、近くにいる大人に声をかけ、なんとか自分の欲しいものを手に入れようと思します。介護保険も。いろいろなことが原因で、自分がしたいこと、これまでできてきたことが思うようにできなくなってしまうことを、何とか「しよう」とす

る時の足台であったり、手になるものといえます。そこで大切なことは、子どもの頃の「あきらめない」心を持ち続けること。介護保険やその他の制度、人はいかに自分のものにできるかにかかっているといえます。

衣笠病院長瀬ケアセンター
居宅介護支援事業所管理者
吉田 勝利



紅葉した楓を拾ったら、子供の頃の自分の手を思い出しました。今思えば、小さな手に色んなものを欲張って握りしめてたな。